# 根室の未来を考える　令和４年度子ども会議
# 報告書

根室市教育委員会

根室市では、子どもたちの健全な成長に向けた取組の充実を図るため、平成２９年度より子ども会議を開催しています。

令和元年度から根室高校の演劇部と一緒に「いじめ」について考えてきました。令和元年は、「SNSによるいじめ」、令和２年は、「コロナ禍における学校でのいじめ」、令和３年は、SDGｓの「ジェンダー平等について」の演題で、高校生の視点で演じていただきました。この演劇を通して「いじめ」と「平等」について交流を深めることができました。さらに、令和２年度から演劇部の演劇をYouTube動画にして、各学校で道徳の時間や学校の様々な活動の中で学びを深めていただき、「いじめ」について考えてもらいました。

今年度は、昨年の『ジェンダー平等で明るい学校生活を考える』で提言された「みんな違っていていい」の考え方をさらに広げることができればと思い、ＳＤＧｓの「人や国の不平等をなくそう」をテーマに「平等」な社会（学校生活）を協議していただきました。

根室高等学校の演劇部の演題「人や国の不平等をなくそう」の演技を通して、高校生の視点で「ほっこりとした心」が大事と提言をしていただきました。

最後には、参加者全員で意見交流をして、「ほっこりとした心」をもとに「違いを認め合う」の意識を高めることを目的として取り組みました。

## Ⅰ．子ども会議の概要

（１）日　時　　令和４年１２月２６日（月）１３時００分～１５時００分
（２）場　所　　根室市総合文化会館　多目的ホール
（３）参加者　　市内小・中学校等の児童会・生徒会代表者37名、引率教諭１６名
　　根室高校演劇部１０名、引率教諭１名
（４）テーマ　　「『平等』な社会（学校生活）について考えよう」
（５）日　程　　13：00　～　13：05　開会式
　　13：05　～　13：25　動画鑑賞・グループ協議
　　13：45　～　14：30　根室高校演劇部発表・グループ協議
　　14：30　～　14：50　発表
　　14：55　～　15：00　閉会式

## Ⅱ．実践発表・意見交流

SDGｓ「人や国の不平等をなくそう」の動画①と②を鑑賞して、「人や国の不平等について思うこと」の協議を行う。

【 出てきた主な意見 】

| 動画①を観て思ったこと | 動画②を観て思ったこと |
|---|---|
| ・生まれた国の違いや考え方の違いだけで人が亡くなってしまったり、病気を治せないのは不平等だと思った。<br>・平等と自分の中のふつうの区別が難しかった。<br>・年間に何百万人も５歳で死んでしまっているので、環境を平等にして方がいいと思った。<br>・上に立つ人が国のイメージをつくっているし、態度を決めている。<br>・不平等だと誰かが生活しずらくなる。<br>・差別について詳しく分かったし、不平等をなくしたいと思った。<br>・全世界のみんながそれぞれの個性について理解できるような社会を目指したい。<br>・文化の違いだけで差別が起きることが気になった。<br>・お金の関係で不平等が起きるならみんな協力して募金などを行いたい。<br>・動画を視聴後に「SDGｓ」について調べてみて、まずこの言葉を知らなかったし、言葉の意味も深く理解することができた。<br>・日本では当たり前の生活が当たり前じゃないことがあることから生活の不平等を少しでもなくせたらと思った。<br>・動画視聴後に調べると、世界のわずかな富裕層の総資産額と貧困層の数十億人の総資産額が同じことに驚いたし、残念だと思った。もう少し資産を平等にすることができないだろうか。<br>・一人ひとりの意識が大切だし、なぜ改善されないのだろうと思う。<br>・障害、肌の色、考え方などの違いだけで差別するのは違う。<br>・生まれた環境から差別がおこる。<br>・世界で違いを認め合うのが難しい。<br>・世界中のみんなが仲良くしたら争いはなくなる。 | ・肌の色が違う人でも受け入れて差別しないようにする。<br>・ハーフだからといって差別する理由にはならない。<br>・差別は良くないと発信することが大切だと思った。<br>・生まれた国が違うだけで、ひどいことを言われるのはかわいそうだと思った。<br>・見た目だけで判断して、その人の内面を知ろうとしていない。<br>・差別は見た目から始まり、いじめにつながることもある。<br>・日本でも外見で差別されている人が日本にもいるから無くしたいと思った。<br>・日本人は似た人、同じでいないと安心できないと感じてしまう。自分とは違う人を見ると受け入れずらい。<br>・人の個性を認め、お互いに尊重し合うことが大切。<br>・自分のコンプレックスを個性の一つとしていくことが大切だと思った。<br>・思ったことがあってもSNSで発信しなくてもいいと思う。<br>・発言とSNSの使い方を気を付けた方がいいなと思った。<br>・国際的なスポーツ大会でも侮辱発言や差別発言がされることが残念に思った。<br>・「個性」と思えるのがすごいと思った。<br>・日本人に不平等をされている人の感想や意見などを発信すれば人種差別は日本ではなくなると思った。<br>・見た目で決めつけるんはダメ。たくさんの個性を持っているから認め合うことが大切。<br>・SNSに悪口を書くのはひどいと思う。 |

## Ⅲ．根室高校演劇部

**あらすじ**

前年度

ジェンダー平等　差別のない社会「みんなちがってみんないい」

「差別のない社会へ　みんな違ってみんないい！」から

「人や国による差別をなくそう」

【演劇部子ども会議の流れ】

① 演劇部による解釈

前年度の公演をふりかえる　「みんなちがってみんないい」

動画の内容を振り返る　「みんなだったらどんな対応する」

・申し訳ないけど私も肌の違う人を見たら2度見してしまう。
・いじめているつもりはないけど何気なくきずつけてしまうかも
　差別のない社会をつくるためには・・・
「難しい問題、高校生の私たちにも難しいのに・・・小中学生はどうしたら・・・」
「さまざまな人種が増えてはきているが、やはり自分と違うものはうけいれがたいという現実」
「違ってもいい、個性を受け入れることジェンダーの時にも言ったけど、人の違いをうけいれること　それが大切」
「人種がどうとか関係ない」
「違いを認め合える心　ほっこりした心（あたたかいこころ）が必要なのでは」
　互いを認めるほっこりとしたこころを

② <u>あいさつして終了</u>

違う肌の色の特徴的な子どもが転校してきて
どう対応するか、どういう気持ちで接したらいいか
・いじりいじめの境目
・傷付けてしまっても謝る。寄り添う。

**【演劇を通しての演劇部の主張】**

「違ってもいい、個性を受け入れることジェンダーの時にも言ったけど、人の違いをうけいれること、それが大切」「人種がどうとか関係ない」
「違いを認め合える心 ほっこりした心（あたたかいこころ）が必要なのでは」
「互いを認めるほっこりとしたこころを」

【交流結果】演劇鑑賞後の交流発表

根室高校の演劇発表とメッセージを受けて、

## Ⅳ．グループ発表

| 根室高校の演劇を鑑賞した後の感想 | 感じたことをまとめよう |
|---|---|
| ・「ほっこり」という表現の仕方がとてもいいなと思ったし、「ほっこりとした心」も大切だと思った。<br>・国や肌の違いを否定せず、認めることが大切だと思った。<br>・生まれた国に違いがあっても、そのことをいじらなかったり、差別などをせずにみんなと同じように接するだけで心が温かくなった。<br>・確かにほっこりとした正直な気持ちで接するのがいいと思ったし、日本人と同じ接し方でいいと思った。<br>・不平等をなくすためにどんな気持ちで相手を接したらいいかが分かったし、考えることができた。<br>・実際のクラスのようにハーフの転校生が来たように、クラスから除外するのではなく、受け入れて、友情が芽生えるそういう社会になればいいなと思った。<br>・人を傷つける言葉を言った人以外の人が笑わなかったのがよかったし、場の空気も悪くなるからよくないと思った。 | ・違いを認め合うのが大切。<br>・差別は良くないと発信することが大切。<br>・見た目や個性で差別しないで、内面をよく見る。受け入れて認め合うことが大切。<br>・外見だけで判断され、相手も周りもよい気持ちにならないから、自分も相手もほっこりする気持ちになるように発言やSNSでの発信の使い方を気を付けていくべきだと思った。<br>・一人ひとりがほっこりとした心をもって接することが大切。<br>・人種の違いをプラスに考えることが大切。<br>・生まれ持った「個性」をみんな受け入れる。<br>・一人ひとりの心を尊重することが大切。<br>・差別をしている人が居たらやめさせる行動をすることが大切。 |

| 根室高校の演劇を鑑賞した後の感想 | 感じたことをまとめよう |
| --- | --- |
| ・肌の色が違う人が転校生できたら優しく接したほうが自分も相手も嬉しくなると思った。<br>・演劇を観て、自分と違ってもまず話しかけてみて、その人の良さを見つけることが大事だなと思った。<br>・差別を受け入れてきた人は、自分を受け入れてくれる人がいると嬉しい。<br>・見た目が違っていてもその人ができることやできないこと、自分ができることやできないことを、教え合って協力して差別がなくなると思った。<br>・自分とは違う見た目などでも、それを分かち合う「ほっこりした心」が大切だというのを劇で伝えていて楽しく学べた。<br>・根室高校のみなさんの「ほっこりとした考え」という意見は良いと思った。<br>・演劇を観て「認め合うこと」の大切さがわかった。<br>・相手に対して、「悪いイメージ」よりも「良いイメージ」を持つことが大切。<br>・見た目の悪口ではなくてすごい所などを伝え合う方が良いと思った。<br>・難しいだが、演劇を観て考えが深まった。 | ・相手を傷つけるような行為をした時はすぐに謝る。<br>・自分は違うが、外見で判断する人がいるからそのような人に声をかけて差別をなくすのも大切だと思った。<br>・みんなが真剣に観てくれたのがとても嬉しかった。<br>・平等になることは難しいけど、認めて誰とでも仲良くなれる世界にしたい。<br>・数人の意識で変わる問題ではないけど、少しでもたくさんの人がもっと周りをみて行動すれば変わっていくと思った。<br>・人は外見だけではなくて、たくさんの個性を持っているから認め合いながら、外見を批判している人たちに声をかけて差別をなくする行動をする必要がある。 |

## Ⅴ．まとめ

昨年の「ジェンダー平等」の時の演劇と同様に「みんな違っていい」の考え方を広げようの目標を、各グループの発表を聞く限り、達成できたと思う。今回のテーマは不平等について、特に差別についての話し合いが中心ではあったが、昨年の「みんな違っていい」と共通した「ほっこりした心（あたたかいこころ）が必要なのでは」という視点に参加者が立てたことは評価できる。国や肌の色が違っていても、相手を尊重する視点に立てば互いに認め合うことができるし、協力し合うことにもつながる。昨年からの「子ども会議」を受けて、子どもたちが「みんな違っていい」「ほっこりした心（あたたかいこころ）」を持って生きていってくれれば、「不平等のない学校」「個性を尊重する学校」を築いていけると思う。

## Ⅵ．今後の対応

今年の「人や国の不平等をなくそう」も難しい内容ではあったが、根室高校の演劇部の発表のように「違いを認め合える心　ほっこりした心（あたたかいこころ）が必要なのでは」という考え方をみんなが持てるようになればと考える。

根室市教育委員会は、「あっとほーむねむろ」のYouTubeチャンネルに根室高校の演劇部の「人や国の不平等をなくそう」のYouTube動画をアップロードして、各学校で教科書代わりに活用し、児童生徒と話し合いを進めてもらえればと考えている。